

主な神戸空襲 [地域・爆弾・被害など] (1945年)

月日	時間帯	攻撃目標と被害地域	B29機数	爆弾トン数	米軍作戦任務報告書の搭載爆弾計画	死者	重軽傷	罹災戸数
3月17日	02:05 ~ 05:15	三菱神戸造船所、兵庫区、長田区、須磨区、中央区、灘区	309	2,300	<p>先導機6機は、大規模火災をおこさせるため、M76焼夷弾を搭載した。</p> <p>主力部隊は、M69焼夷弾を内蔵した500ポンド集束弾 (E28集束弾、E36集束弾、E46集束弾) をできるだけ多く搭載した。これらは、目標上空2000フィート(約610m)で作動するよう起爆装置がセットされた。</p> <p>M47A2焼夷弾の取り付け集束器が不足したため、その代わりに4ポンドマグネシウム弾を内蔵したM17A1集束焼夷弾を搭載。</p> <p>2種類の焼夷弾の搭載によって、消防活動は異なる方法を探らなければならなくなる。M69焼夷弾は、水を掛ければ鎮火するが、マグネシウム弾は水をかければ急速に燃焼する。</p> <p>三番機は、T4E4破碎集束弾を搭載した。これは、できるだけ消火活動を混乱させるためのものであった</p>	2,598	8,558	65,728
5月11日	08:40 ~ 11:15	川西航空機甲南工場、灘区、東灘区	92	460	B29には弾頭0.01秒遅延弾尾に無延期信管をつけた500ポンド通常爆弾だけを搭載することを決定。	1,093	924	3,728
6月5日	07:30 ~ 10:30	灘区、中央区、長田区、須磨区	481	3,000	<p>M47A2焼夷弾は、瞬発弾頭・起爆装置をセット。</p> <p>T4E4破碎集束弾は、目標区域内にいる編隊の全機より下で作動するのを確保するために、機下3000フィート(約910m)で作動するよう起爆装置をセット。</p> <p>M69焼夷弾 (E46集束焼夷弾) は最適な貫通力と弾着角度を確保するために、目標上空5000フィート(約1520m)で作動するよう起爆装置をセット。</p>	3,184	5,824	55,368

1、焼夷弾・集束焼夷弾

* 500ポンドは公称重量。[]内は完成品平均重量。kg換算値も併記

M47A2 100ポンド焼夷弾 [70ポンド 31.8kg]

= ナバーム焼夷弾。搭載にはT19集束器で6発ずつ束ねて懸架

M76 500ポンド焼夷弾 [480ポンド 217.9kg]

= 大型ナバーム・マグネシウム焼夷弾

E28 500ポンド集束焼夷弾 [350ポンド 158.9kg] E36 500ポンド集束焼夷弾 [360ポンド 163.4kg]

E46 500ポンド集束焼夷弾 [425ポンド 193.0kg] E48 500ポンド集束焼夷弾 [515ポンド 233.8kg]

= 六角形の6ポンド(2.7kg)焼夷弾 (M69) を38発内蔵したクラスター(親子)焼夷弾。ゼリー状のナバーム剤を内蔵。

M17 500ポンド集束焼夷弾 [465ポンド 211.1kg]

= 六角形の4ポンド(1.8kg)焼夷弾 (M50) を110発内蔵したクラスター(親子)焼夷弾

テルミット・マグネシウム剤を内蔵。日本の木造家屋に対しては、貫徹力は強すぎるもの。

2、破碎弾

T4E4 500ポンド破碎集束弾 [425ポンド 193kg]

= 20ポンド(9kg)破片弾 (M41) を20発集束した人馬殺傷用破片弾。弾体の周囲を螺旋状の環が巻き、炸裂時に細片となって飛散。

3、通常爆弾

M64 500ポンド通常爆弾 [535ポンド 243kg]

= 日本流にいえば、250キロ爆弾。爆薬が充填された破壊用爆弾。

資料出所: 『神戸大空襲 - 60年から明日へ』(2005・神戸新聞)
「米軍資料による神戸大空襲」(神戸市文書館)